

世界の生食用ブドウ 輸出は減るも人気は上昇

FreshPlaza 2023年9月25日

輸出は減少したが、生食用ブドウの人気は依然として高まっている

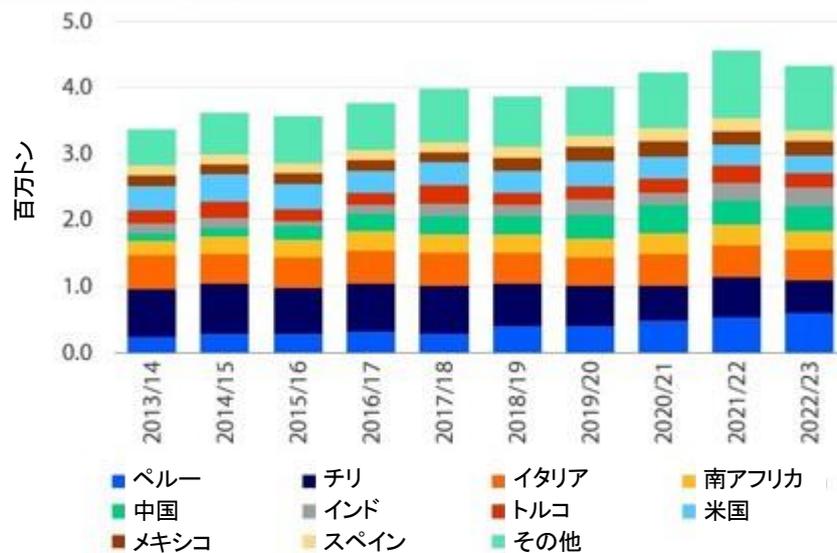
ラボバンク(オランダの金融機関)の最近のレポートによると、世界の生食用ブドウの輸出量は前シーズンと比較して減少したが、成長軌道にとどまっているようである。供給国は、効率の向上に努めながら、さまざまな課題に取り組んでいる。緑の種無し品種が人気を集めており、需要が高まっている。

ブドウは引き続き世界的に取引される主要な果実の1つ

2022/23年度シーズンの世界的な輸出量が5%減少したものの、多くの国が需要を満たし、効率を高めるように生産を調整している。ラボバンクの青果物担当シニアアナリストであるゴンザロ・サリナス氏は、「世界の生食用ブドウの輸出シーズンとしては、前年度(2021/22年度)に次いで史上2番目に輸出量が多い。過去10年間に見られた輸出の増加傾向は、今後数年間続くと予想される」と述べている。

さまざまな地域の主要輸出国が直面する課題の中で、天候の不規則性は重要なものである。チリでは、過去10年にわたって収量の低い園地の大規模な伐根やその他の収益性向上の取り組みを行い、輸出が18%減少した。一方、ペルーは昨シーズン、2023年初頭の政治的抗議活動によって引き起こされた物流の混乱にもかかわらず、60万トン近くを輸出し、最大の輸出国に浮上した。

世界の生食用ブドウ輸出量 2013/14~2022/23



注: 北半球の国では、グラフはシーズン中の1年目に取得されたデータを表す。

2022/23年度は暫定値

出典: Trade Map、米国農務省、欧州統計局、ODEPA、Senasa、Rabobank 2023

主要な輸出先市場で価格が上昇

主要な輸出先市場での価格の上昇は、小売環境を変え、緑色の種無し品種の人気が高まっている。「一部の市場ではブドウがやや入手しにくくなっているが、管理された成長が見込まれる」とサリナス氏は言う。

将来の品種の分布は赤よりも緑に傾く

将来の生食用ブドウ品種の分布は赤よりも緑に傾いている。収量が高く、収穫量当たりのコストが低く、品質が改善された権利関係の有る品種は、今後のシーズンに供給の最前線にあり、生産者と小売業者の両方に利益をもたらすと見られる。